

■英国エディンバラ公国際アワード アドバイザー講座レポート

参加者と共に制度のもうひとつの要となる英国エディンバラ公国際アワードアドバイザー講座が、これまでに2回行なわれました。(3月19日現在)。8月6日と11月11日には、英国エディンバラ公国際アワードから講師としてロブ・オリファント氏、スー・ウォーカー氏を東京学芸大学にお迎えし、研修会を開催しました。研修会では座学による講義の他にブラインドワークやボールプレイを通して信頼関係の構築やコミュニケーションの基礎について学びました。



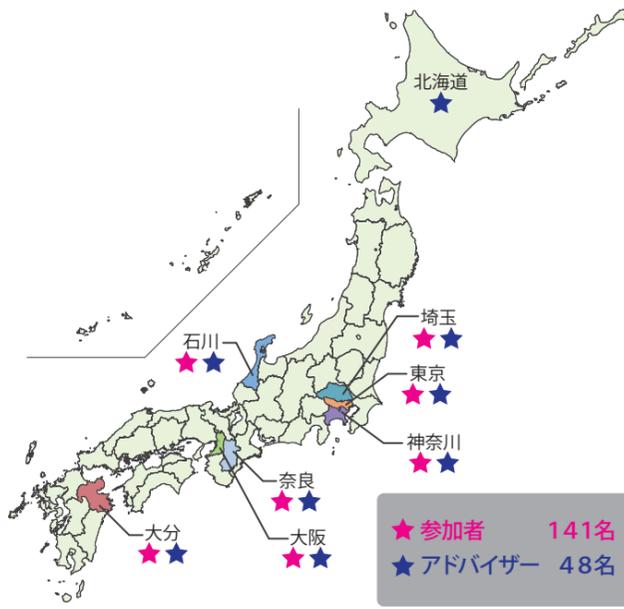
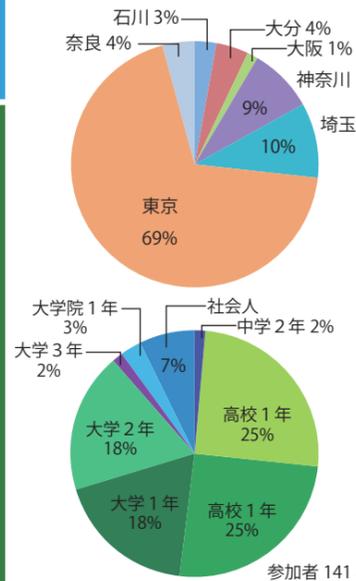
講座にてグループワークに取組む参加者

■英国エディンバラ公国際アワードについて

英国エディンバラ公国際アワード(以下国際アワード)は1956年にイギリスで開始された若者向けの評価制度です。自分自身で目標を設定しこれに挑戦していくという形式はエディンバラ公自身の体験や直接的な経験から意味を見出すプロセスである「経験学習」の理念に基づき、ボランティアを行なう若者や関連組織との協力を経て確立されました。制度の目的は青少年に対して社会的・自己啓発的な活動に自らの意思で参加し、青年期から成人期の難しい時期を乗り越えることで、複数の領域に参加する事でバランス感覚を養うことも目指しています。この基本的原則は変わっていませんが、活動内容と評価や授与の方法は社会からの要求と、若者の様々なニーズに適応しながら進化を続けています。国際アワードは現在世界をリードする若者の業績を評価する仕組みとして認識されており、各地で若者に働きかける組織によって活用されています。その形式は国によって様々で、ポルトガル、フィンランド等では日本と同様に国内タイトルという形で表彰を行い、その業績を国際アワードと結びつけるという形を採用しています。参加者とそのコミュニティにポジティブな影響を与える仕組みとして、これからの時代に国際アワードの必要性は高まって行くと考えられます。

ホームページ: <http://www.intaward.jp/>

■アワード参加者状況



活動記録

- 青少年体験活動奨励制度委員会
第1回: 平成25年10月21日 @都内会議室
- 青少年体験活動奨励制度委員会
第1回: 平成25年8月20日 @東京学芸大学
第2回: 平成25年9月5日 @東京学芸大学
第3回: 平成25年10月21日 @都内会議室
第4回: 平成25年12月16日 @東京学芸大学
第5回: 平成26年2月4日 @東京学芸大学
第6回: 平成26年3月10日 @東京学芸大学
- 英国エディンバラ公国際アワードアドバイザー講座
第1回: 平成25年8月6日 @東京学芸大学
第2回: 平成25年11月11日 @東京学芸大学
- 教育支援人材認証協会アドバイザー講座
第1回: 平成26年3月25日 @大阪NPOセンター
第2回: 平成26年3月26日 @東京学芸大学



青少年体験活動奨励制度ホームページ
<http://www.u-gakugei.ac.jp/~codomo/jya/index.html>



教育支援人材認証協会
Japan Association for Certifying and Training Educational Specialists

発行: 一般社団法人教育支援人材認証協会
発行日: 平成25年3月28日
編集部: 小山田佳代
デザイン: 黄川田勇太
連絡先: 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学内
(TEL) 042-329-7605 (Email) info@jactes.or.jp
協会 Facebook
<http://www.facebook.com/jactes>



平成25年度 文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」
青少年体験活動奨励制度

2014.03.28 発行



CONTENTS

- 奨励制度表彰式 p1
- Advisor's Cafe p3
- 受賞者の声 (授賞式でのアンケートより) p1
- 英国エディンバラ公国際アワードについて p4
- AWARDS Perspective (制度の仕組みと今後の見通し) p2
- アワード参加者状況 p4
- AWARDS Report (参加者の活動報告) p3

奨励制度表彰式

3月19日(水)に青少年体験活動奨励制度の表彰式が文部科学省にて行われました。当日は制度に参加し、主体的な体験活動の継続を達成した青少年の参加者が文部科学省スポーツ・青少年局長から表彰を受けました。当日は修了者及び修了予定者を含め、約80名程度の参加がありました。参加者・保護者の方に加え、本制度にご理解を頂いている企業や教員の方々にもご参列頂きました。本制度では日本全体での人材育成も視野に入れ、地域・学校との連携においては生徒の向学心の向上、企業との連携においては新入社員のリクルート、研修との連携にまで結びついて行く活動を目指しております。表彰式においても企業や学校関係者の方々に多くご参加頂いた事で今後の制度の拡充に向けて展望が持てる事となりました。

表彰式は深谷昌志氏(一般社団法人教育支援人材認証協会・研究開発委員長)の開会の挨拶から始まりました。制度に参加している学生と、それに協力頂いた高校・大学の先生のへ謝辞に始まり、電子メディアが広まった現代で生の体験の大切さを伝えて行く事の意義についてお話頂きました。

今年度の活動状況として瀧口優氏(一般社団法人教育支援人材認証協会運営委員会)からは今年度の活動と来

年度に向けての展望という内容で、参加者個別の体験活動からの記録写真を交えながら実例報告を行いました。今年度の参加状況は、参加者141名中修了予定者71名となっており、修了の大変さと同時にその事が修了者への達成感の高さにもつながり、制度自体の価値にもつながって行きます。次に文部科学省スポーツ青年局長から会場の全受賞者への表彰状の授与とご挨拶頂きました。参加者、指導者、協会関係者へ対して労いのお言葉を頂きました。また、参加者の青少年達には今後は国内はもちろん世界各地での活躍が期待されているという激励のお言葉を頂きました。その後は全体での記念写真撮影を経て、参加者間での交流会を通して活発な意見交換が見られました。



受賞者の声 (授賞式でのアンケートより)

授賞式では参加者の方々に本制度に参加しての感想をアンケート形式で記入頂きました。

活動継続期間の感想として、とても大変、少し大変、疲れたつらかった等の答えが多く見られた一方で、達成感100点中75~90点が多く、また友人等に体験活動への参加を勧めるかという問いに対して、とても勧



める、かなり勧める、という答えが多く見られました。この結果から、本制度が目的としている自己の内発性に基づいての活動への継続的な参加や、自ら立てた計画に従って自己実現へのステップを段階的に進めて行く事で達成感を得て、様々なことにチャレンジして行くという事の大切さが参加者にはしっかりと伝わっている事が見受けられました。

全ての回答者が、今回の活動をきっかけとして今後も自分自身でいずれかの活動を継続して行きたいと回答しており、この体験活動がきっかけとなって今後の学業や進路、仕事への良い影響が表れてくれる事を期待できます。運営サイドとしても非常に嬉しい回答が得られました。

アンケート作成 調査担当: 深谷昌志(東京成徳大学名誉教授)、杉森伸吉(東京学芸大学教授)

今年度の参加者数

今年度修了予定者数/参加者数

71/141人

アドバイザー人数

48人

(平成 25 年 3 月 19 日現在)



AWARDS Perspective

制度の仕組みと今後の見通し

青少年体験活動奨励制度とは？
～制度の仕組みのご紹介

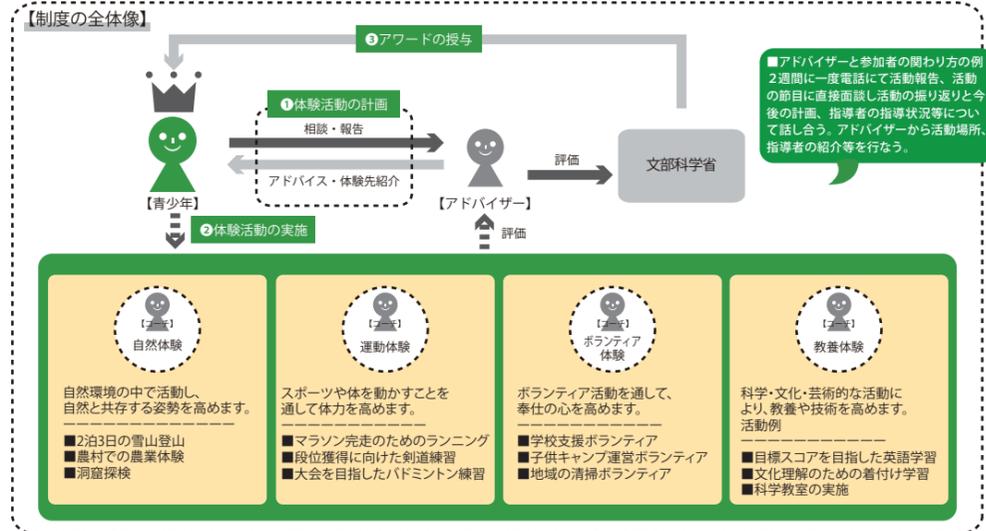
制度のご紹介

青少年体験活動奨励制度とは、青少年(対象 14～25 歳)の様々な体験活動へのチャレンジを奨励するための仕組みで、文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」として、青少年の支援のために本協会が受託をして制度設計を進めています。そして「自然体験、運動体験、ボランティア体験、教養体験」の 4 領域の体験活動を総合的に一定期間継続した実績に応じて、その達成を記念する修了書(アワード)を文部科学省から青少年に授与します。

また、海外留学や就職の際にも活用できるよう、国際的な体験活動の評価顕彰制度である英国エディンバラ国際アワードの賞(ブロンズ)が同時取得を検討しています。

この体験活動を修了した青少年は主体的に活動を考え、計画し、目標を定め、継続したことになります。活動は長いものでは6ヶ月以上の継続が必要になるので、活動が修了する頃には参加した青少年も主体的活動を継続することの重要性や達成感を感じることができます。

本年度は、141 名の青少年が制度に登録し、様々な体験活動にチャレンジしました。そのため、この仕組みでは、アドバイザーと呼ばれる役割の人が、活動計画や活動中のつまづきなどにアドバイスをする事で、参加した青少年の体験活動をサポートします。今年度は研修を受けた 48 名がアドバイザーとして、登録をしています。参加者として、アドバイザーとして、青少年の体験活動を実施する受入先として、その他にも様々な形で、この取組み



アワード参加者の方から、

- 受賞時の活動内容
 - 現在の活動状況
 - 今後の抱負
- をお聞きました!!



AWARDS Report

参加者・協力者の活動報告



ReportNo.0001

体験活動参加者
と担当アドバイザーの感想

アドバイザー：山本智美さん

始めた当初の活動内容と目標を、事務局と相談しながら時には変更もしつつ柔軟に対応して進め、参加者のモチベーションの維持を図る事を大事にしました。体験を指導していく中で嬉しかった事は、ボランティア体験を通して言うなら「この活動が終わってからも続けて良いですか?」と青少年が自然と言葉に発してくれた事です。アドバイザーという役目に携わってみて始めた当初より私自身の心と言葉掛けが、そのまま青少年の取り組み姿勢に映し出されている様で責任を感じていますが私も青少年と一緒に発見しながら今後も続けて行きたいと思います。また、この制度が世の中に知られなければ参加者の活動に活かして行く事が出来ないと感じました。今後、参加される方の事も考えて私のライフワークとなる取り組みとして、人前に出た時には話す様に心掛けています。

ブロンズアワード修了者：溝口真生さん

この制度を通して今までの生活の中では見過ごしていた意外なところに、自分に合っている事や好きな事、興味を持てる事を発見でき、なりたい自分がイメージできました。また教養体験に関しては、自分の進学先や将来のことを考え直すきっかけになりました。学業や習い事と両立して、この体験活動を継続できたのは両親やアドバイザーの支えがあったからこそだと思います。きっと私 1 人だったら、途中で挫折していました。そういった面に関しても、自分の成長すべき点を見つける事ができたので良い経験になりました。この経験を活かし今後さらに自分の将来に向けての知識などを深めていきます。

溝口さんの体験活動内容
運動：ボーリングの技術向上
奉仕：老人施設で話し相手になる
教養：手話を習得する
自然：自然体験施設で農場・自然体験



Report No.0002

体験活動参加者
と担当アドバイザーの感想

アドバイザー：山田修平さん

学生自ら達成目標を設定し、体験していく過程で、月を重ねることに目標がより具体的になっていく様が印象に残っている。与えられた課題をこなすのではなく、自ら設定していく今回の取組みは、動機付けがなされていることで、体験が確実に身になっていくように感じた。特にボランティア活動では、普段の生活では出逢わない方々とのふれあうことで、新たな体験と様々な価値観に出逢うことができたようである。ボランティア活動当日に至るまでの様々なコーディネートや外部との連絡等を通じて、臨機応変に対応することや責任を持って務めることを体験した価値は学生にとって大きい。

加藤さんの体験活動内容
運動：シェイプアップのためのウォーキング
奉仕：ベビーマッサージサポート・親子遊び教室サポート
教養：漢字検定 2 級の学習
自然：群馬にて洞窟くぐり・実測・イグルーづくり

ブロンズアワード修了者：加藤茜さん

今回青少年体験活動奨励制度に参加することで、新しい世界が広がり自ら行動をする自信に繋がりました。漢字検定やウォーキングは以前から取り組みたいと考えていながら、なかなか始められませんでした。しかしこの機会に背中を押してもらいました。またボランティア活動を沢山行うことで、多くの方とふれ合い相手の目線に立つことや様々な考えを学びました。自然体験では、普段の生活ではなかなか体験できないことをすることができました。自然の中での活動は感性が育つとも感じました。多くの方に参加して欲しいと思っています。その上で、学校や活動の受け入れ先の方等多くの大人の補助が重要だと思います。多くの経験をする事で、視野を広げ、新たな可能性や未来が開けると実感しました。私自身、保育士になる上での糧になりました。このような機会を下さりありがとうございました。

皆様の活動を
ご報告ください

今後も全国の参加者の皆様のご活動をご紹介します。皆様からの活動レポートを事務局までお送りください。

- 制度に参加して良かったこと、自分の活動に活かされたこと
- 現在の活動内容
- 今後の抱負

⇒FAX:042-329-7605
⇒Email:info@jactes.or.jp

Advisor's Cafe



アドバイザー講座 in 大阪
2014 年 3 月 25 日(火) (大阪 NPO センター)

NPO 団体、大学関係者から 10 数名ご参加頂きました。講師は奈良教育大学教授・高橋豪仁先生にご登壇頂きました。制度に関してのお話と、青少年の育成における体験の必要性についてご講義頂きました。講義後のディスカッションの際は青少年の体験をどのように支援していくかについて参加者間での積極的な意見交換が行なわれました。

アドバイザー講座 in 東京
2014 年 3 月 26 日(水) (東京学芸大学)

東京で行なわれたアドバイザー講座では東京学芸大学准教授・小森伸一先生にご登壇頂きました。参加者は現在こども支援士や放課後子ども教室で活躍している方が多く、それぞれ担当している小学生が今後青少年になっていった時にどのように支援していけば良いか、参考になったというご意見を頂きました。講義後には活発な質問や意見交換が行なわれました。